

1850年創業 「漁民の利益につながる、よい漁具を」



アサヤ株式会社

会社案内



気仙沼本社	〒988-0853	宮城県気仙沼市松川前13-1	TEL: 0226-22-2800	FAX: 0226-22-5434
石巻支店	〒986-1111	宮城県石巻市鹿又中塚25	TEL: 0225-98-7870	FAX: 0225-75-2238
釜石支店	〒026-0002	岩手県釜石市大平町3-9-1	TEL: 0193-22-2410	FAX: 0193-22-2455
宮古支店	〒027-0096	岩手県宮古市崎鋤ヶ崎第11地割10-1	TEL: 0193-62-6234	FAX: 0193-63-3046
階上工場	〒988-0213	宮城県気仙沼市最知南最知304-7	TEL: 0226-27-3008	FAX: 0226-27-2091
越喜来工場	〒022-0101	岩手県大船渡市三陸町越喜来烏頭5-1	TEL: 0192-44-3265	FAX: 0192-44-2130

漁民の利益につながる、よい漁具を

三陸の漁業に貢献することこそが、アサヤの仕事の本質。たとえ、他の業者が諦めたとしても、アサヤだけは最後まで諦めずに、三陸の漁業を守る。

社員が主役になれる仕事

アサヤの仕事の主役は社員。主役が貴重な人生を費やす仕事なのだから、楽しさと充実感がなくてはならない。「好き」で「得意」で「裁量」があって「評価」される仕事を作り、皆で力を合わせて頑張る、頑張った分だけ報われる会社を目指す。

三方よしの三百年企業

アサヤの創業は1850年。2050年には創業二百年、頑張れば三百年企業も夢じゃない。そのためには、社員が楽しく働き、お客様に喜ばれ、地域にも貢献する、「三方よし」が大切。地域の模範となる行動を心がけ、「信頼」という財産を遺す。

■ 漁民の利益につながる、よい漁具を

アサヤは1850年創業の漁具屋で、三陸全域を商圈としています。代々、「**漁民の利益につながる、よい漁具を**」の理念を守り、漁業家の役に立つ資材や機械を提供してきました。

アサヤの歴史は、三陸の漁業への貢献の歴史です。釣糸を作るための麻の買い付けから始まった商売は、時代とともに釣針、ロープ、網、カゴ、樹脂製品、機械と遷り変わってきましたが、本質は創業以来一貫して変わりません。漁業家の話を親身になって聞き、どうすれば役に立てるかを真剣に考える。様々な関係者を巻き込み、漁業家のために一所懸命に行動する。漁業家に貢献して喜んでもらえれば、仕事に張り合いが出てさらにのめり込める。**三陸の漁業に貢献することこそが、アサヤの仕事の本質**なのです。

漁業家を取り巻く環境がどれだけ厳しくなっても、アサヤはこの姿勢を貫き通します。**たとえ、他の業者が諦めたとしても、アサヤだけは最後まで諦めずに、三陸の漁業を守ります。**三陸の漁業家にとっての真のパートナー、それがアサヤの目指す姿です。

■ 社員が主役になれる仕事

アサヤにとって最も重要な資産は社員です。アサヤが商売を続けられるのは、お客様に一所懸命に貢献しようと頑張る社員がいるからです。**アサヤの仕事の主役は社員**なのです。

社員が主役であるならば、社員が仕事を通じて最も輝かなくてはなりません。仕事は人生の大半を費やす活動です。ただ単に自分の時間を切り売りして給与と交換する、そんな食い扶持を稼ぐだけの寂しい仕事では、貴重な人生を費やすだけの価値がありません。**仕事をする事自体が楽しくて、仕事をする事で人生が充実する。**アサヤはそんな仕事を提供できる会社を目指します。

では、楽しさと充実感のある仕事には何が必要でしょうか。

第一に、**自分が取り組む仕事を「好き」であること**です。仕事が好きであれば、仕事をする事自体が楽しいし、創意工夫が働くので良い結果が出るし、一所懸命に学ぶので成長します。

第二に、**仕事で自分の「得意」なことが活かせること**です。得意なことが活かされれば、人より苦勞せず結果が出せるし、お客様に喜んでもらえて嬉しいし、仕事をさらに好きになります。

第三に、**自分で考えて行動できる「裁量」があること**です。言われた通りに仕事をするだけでは楽しさも充実感ありません。どうすればもっと喜んでもらえるか、どうすればもっと楽になるか、常に考えながら新しい工夫を積み重ねることが大切です。

第四に、**自分の仕事が「評価」されること**です。誰にも喜んでもらえない仕事には楽しさも充実感ありません。相手の期待をきちんと知り、期待を満たせるように改善を積み重ね、心から相手に喜ばれる仕事をするのが大切です。

そんな楽しさと充実感のある仕事を通じて、アサヤはより多くのお客様に価値を届け、より多くの対価を受け取り、社員の生活をより豊かにすることを目指します。**会社の規模を大きくしたり、多くの利益を残したりするよりも、皆で力を合わせて頑張っ、頑張った分だけ報われる会社でありたい**のです。会社一丸となって、夢と希望を共有して、全力で邁進する。アサヤはそんな活力のある会社を目指します。

■ 三方よしの三百年企業

アサヤは2015年に創業165年を迎えました。今後もお客様に価値を届け続けることが出来たのなら、**2050年には創業200年**を迎えることができます。そして、次の世代、その次の世代とバトンを引き継いでいくことが出来れば、**2150年には創業300年**を迎えることができるでしょう。

そのためには、**お客様と社員に加えて、もう一つ大事にすべき存在があります。それは地域です**。近江商人の「三方よし」という言葉の通り、「売り手よし、買い手よし、世間よし」のバランスを取ることで、会社は永く継続していくことができます。

では、アサヤが地域に対してできる貢献とは何でしょうか。最も大切なのは社員の日々の行動です。近所の人達に気持ちのよい挨拶をする。草刈りや雪かきなどを進んで行う。地域の行事のお手伝いをする。子ども達やお年寄りの面倒を見る。**地域の模範となるような行動が一番の地域貢献**なのです。

その積み重ねの結果として、アサヤの人はとても立派だ、アサヤの人に頼めば間違いない、アサヤの言うことなら信頼できる、自分の子供もアサヤで働かせたい、アサヤの活動を応援したい、といった**信頼を獲得することは、次の世代に引き継ぐことができる無形の財産**となるでしょう。

社員が楽しく働き、お客様に喜ばれ、地域にも貢献する。アサヤはそんな「**三方よし**」の企業であり続けることを目指します。

基本戦略：顧客への密着

お客様と誰よりも親密な関係を築き、常に相談を持ちかけられるポジションを確立する。

営業戦略：資源・収益・労働力の課題解決

三陸の漁業家が抱える資源・収益・労働力の課題を解決するために全力を尽くす。

- ✓ 「面倒事」 非効率なことを厭わずに引き受ける
- ✓ 「機械化」 機械の導入から保守までを担う
- ✓ 「漁法革新」 新しい方法を開発・提案する
- ✓ 「漁業啓発」 漁業に興味を持つ人を増やす

管理戦略：「社員が主役」の人事制度

育成面談、目標管理など、社員が主役として楽しく充実して働くための環境作りを行う。

また、社員の生活向上を実現するため、報奨制度の検討や給与体系の見直しを行う。

投資戦略：ヒト・モノ・カネ・情報・ブランド

三百年企業を目指して、「ヒト・モノ・カネ・情報・ブランド」という経営資源を磨き続ける。

商品

繊維（ロープ・網・糸）



薬品（防汚剤・塗料）



機械（漁船用・養殖用）



施設（フロート・アンカー・土俵）



備品（カゴ・金物・プラスチック）



拠点

仕入



販売



顧客

漁船漁業



養殖漁業



定置漁業



内製作業

- 漁網の仕立て
- 水中ロボットでの漁場調査
- 油圧ホースの製作
- 漁撈機械の修理・整備
- 救命筏の整備
- 漁網の防汚加工・染網
- フロートの製造
- 船舶の塗装

主要商圈 (岩手県・宮城県)



漁船漁業

漁船を主体とした漁業を営んでいる顧客。気仙沼の遠洋・近海マグロ延縄が大半を占めており、あとはメカジキ突きん棒、イサダ船びき網、サケ縄、サケ刺し網などが含まれる。



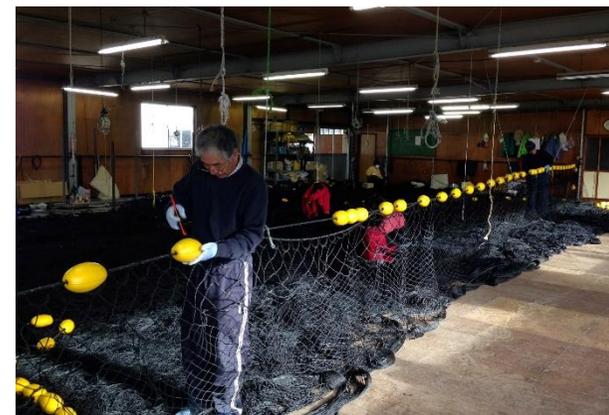
養殖漁業

様々な海面養殖漁業を営んでいる顧客。主に、三陸全域で行われているホタテ・カキ・ワカメ、岩手南部～宮城のホヤ、宮古のコンブ、宮城北部のギンザケなどが含まれる。



定置漁業

定置網を使った漁業を営んでいる顧客。定置網には都道府県知事の免許が必要で、5年毎に免許の更新がある。岩手・宮城では漁協単位で営んでいることが多い。



繊維 (ロープ・網・糸)



薬品 (防汚剤・塗料)



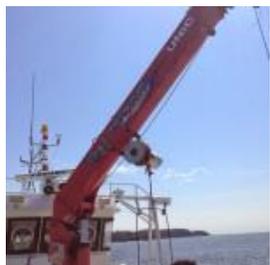
機械 (漁船用・養殖用)



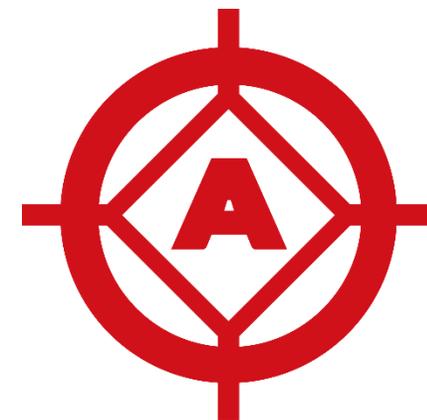
施設 (フロート・アンカー・土俵)



備品 (カゴ、金物、プラスチック)

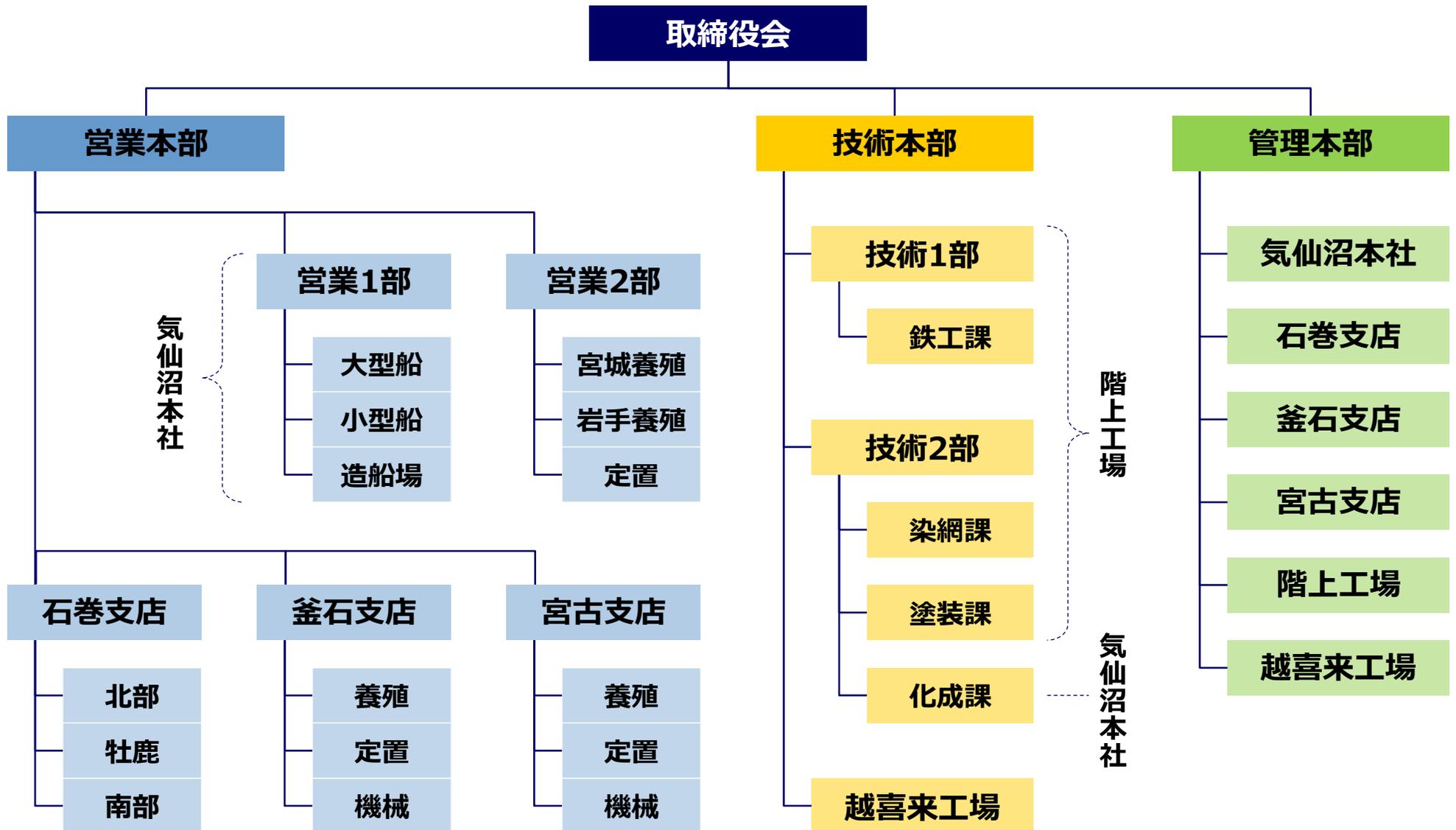


社名	アサヤ株式会社	
所在地	〒988-0853 宮城県気仙沼市松川前13-1 TEL : 0226-22-2800 / FAX : 0226-22-5434	
代表者	代表取締役社長 廣野 浩	
資本金	50,000,000円	
従業員数	76名（常勤役員を含む、2015年5月現在）	
創業	1850年（嘉永3年）	
法人設立	<ul style="list-style-type: none"> 1948年5月1日 1988年6月1日 	「株式会社麻屋商店」を設立 「アサヤ株式会社」に社名変更
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 漁具・船具・漁業資材・漁撈機械の販売 水中ロボットでの漁場調査 漁撈機械の修理・整備（漁撈機械課、鉄工部） 救命筏の整備（漁撈機械課） 油圧ホースの製作（漁撈機械課） 漁網の防汚加工・染網（染網部） 船舶の塗装（塗装部） フロートの製造（化成部） 漁網の仕立て（子会社：麻屋漁網株式会社） 	



アサヤのロゴマークは、1988年に社名変更した際に、5代目・廣野甚吉がデザインしました。

アサヤの英字表記の「A」、主要製品であるロープの円形、同じく主要製品である網の菱形をモチーフとしています。





江戸後期から150年以上も続く漁具船具の老舗「アサヤ」

アサヤ

(気仙沼市)



広野 浩さん

江戸末期の一八五〇年を付けた、麻の網を使うに、初代の広野太兵衛が気仙沼市八日町の旧本社で麻の商売を始めた「広野屋」のため「麻屋」と呼ばれるようになった。当時は麻糸を針

大正初期には釣り糸が麻から綿、漁網も綿糸網に変わった。手こぎ船たけなく、動力船が導入された。

屋号ものがたり



投稿

『陸軍・広野中將』
 陸軍中將 廣野太吉
 等功級の広野太吉は戦時中、気仙沼出身の軍人として最前線にあり、町民憧れの的でもあった。
 明治二十一年(一八八七年)二月四日、気仙沼町幸の前三浦・屋号麻屋、父広野長衛(二代大兵衛)、母とよ(折屋小山)の四男として生まれた。

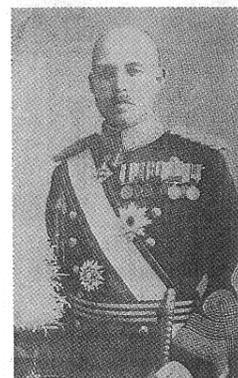
麻屋商店は親業の跡継ぎとして、横入れ・焼きたちの種で「打刺」を作ったところから始まり、「広野屋」の骨で麻屋を築いていった。
 当時の漁師は、麻糸に釣り針を仕込んで魚を釣る。この釣り針を多用していたので、製網業として知られるようになった。この製網業は、兵衛が初代、太吉が二代目、太吉の長男が三代目と継がれてきた。

鼎ヶ浦物語

たあと、横入れ・焼きたちの種で「打刺」を作ったところから始まり、「広野屋」の骨で麻屋を築いていった。
 当時の漁師は、麻糸に釣り針を仕込んで魚を釣る。この釣り針を多用していたので、製網業として知られるようになった。この製網業は、兵衛が初代、太吉が二代目、太吉の長男が三代目と継がれてきた。

校卒業後、仙居一中、仙居陸軍幼年学校を経て、陸軍中央幼年学校を経て明治三十八年(一九〇五年)十一月、陸軍士官学校を卒業。陸軍少佐に任ぜられた。

在郷軍人の選別会に認められ、友人、友人らと懇談をた。陸軍少佐に任ぜられた。陸軍少佐に任ぜられた。



広野太吉

社員主役に漁具を商う

2001年2月23日 気仙沼かほく 4面

気仙沼出身の陸軍中將・廣野太吉もアサヤに縁のある人物

現社長の廣野浩(六代目)

2008年9月18日 三陸新報 5面

歩み 9月

気仙沼港

漁具屋帰ってきた跡取り

「これは同じ使う道具だしよー」。気仙沼市の漁具販売会社「アサヤ」の取締役・廣野 誠さんと息子は重なる。5代のステレス製のハート形の輪を掲げた。首をひねって見めるのは、同社の倉庫などを回って回る一風変わったツアーに市内外から参加した約10人。

正解は「ツナショッカー」。



「ツナショッカー」の使い方をツアー参加者に見せる廣野さん（中央）（5日）

はえ縄漁でタクロに電気ショックを与え、動きを抑える道具だ。予想つかない答えに参加者は「どう使うの？」と興味津々。魚体を引く強さや動きなど経験関係者にはおなじみの道具も参加者の目には珍しく、大盛り上がりだ。タコ籠を使った漁も見学した。ツアーは5日、被災地の漁業に心を注いでもらおうと、廣野さんが地元仲間と結び初めて開いた。「私も1年前までは、漁具

なんて知りませんでした。そう言う廣野さんは1800年創業のアサヤの経営一家に長男として生まれたが、子供の頃の夢はゲームのプログラマー。いつかは家を継ぐ。そんな考えも頭の片隅にあったが、早稲田大卒業後は東京のコンピュータ関連会社に就職、充実した毎日だった。転機となったのは4年半前。6代目社長の父・浩さんが（27）が世を去り、本社を含む営業拠点が所全が全壊した。漁具

漁具の技術者が高齢化や漁業の先細りなどを課題意識が、「経験とアイデアで、被災した街や会社を盛り上げていきたい」。ツアーはその第一歩だ。今月26日には第2弾を開く。（安田龍輝、9日おわり）

2015年9月16日 読売新聞 宮城版 35面



昔ながらの漁師町にはカラフルなプレスレットがよく似合う。宮城県気仙沼市で、漁網を利用した「漁具アクセサリー」が今、話題になっている。

先月行われた体験教室では、参加者が定置網などに使うロープを一心に編み上げ、「気仙沼らしいお土産」を手首につけ、笑顔を見せた。

*** 漁師町 絆のアクセ**

アクセサリー作家の菅原理香さん(34)と共に考案した漁具屋の廣野「誠さん(32)は「漁師の仕事にとって切っても切れない大切なロープを通し、被災地とつながってほしい」と話す。（稲垣政則）

LENS 被災地発

2015年10月10日 読売新聞 夕刊 12面

漁業に興味を持ってくれる人を増やすために
観光客や地元民向けにイベントを開催



気仙沼で 漁業の仕事学ぶツアー



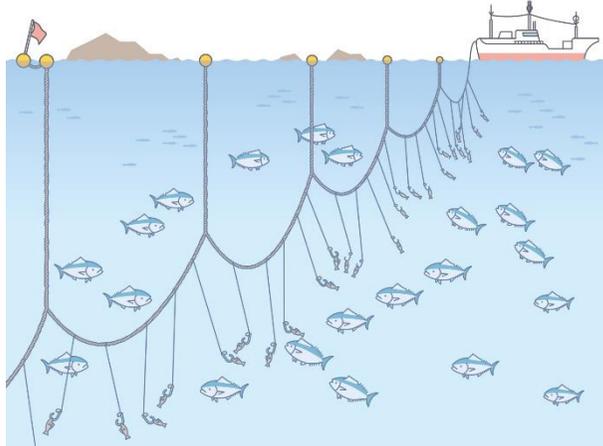
漁業の仕事を知る 気仙沼でツアー



漁業の仕事を知る 気仙沼でツアー

2015年9月26日 NHKニュース

【延縄】 150～200kmの幹縄に、2～3千本の枝縄を付けて、マグロ・メカジキ等を獲る。



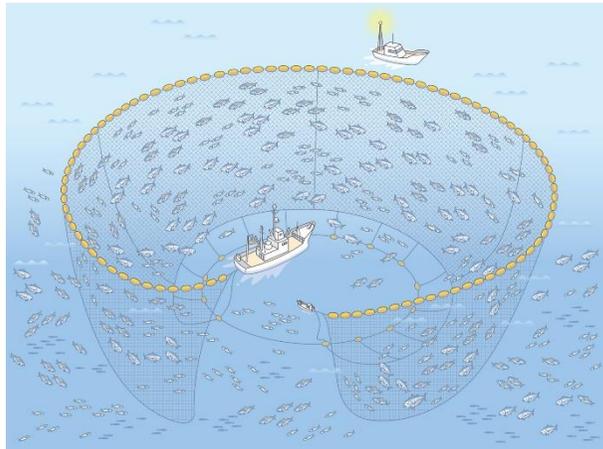
【サンマ棒受網】 網を沈めておき、集魚灯でサンマを集めた後、網を引き上げて獲る。



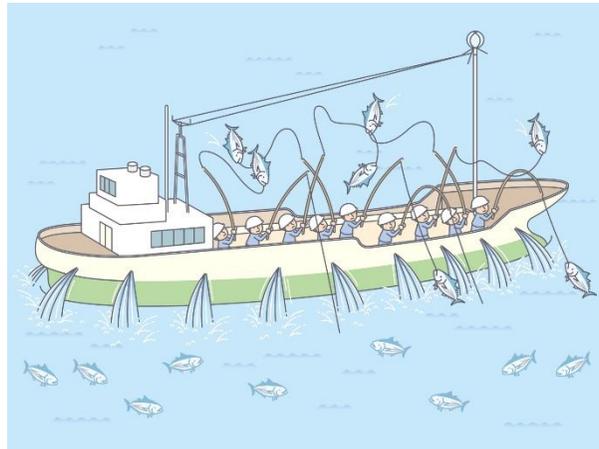
【イカ釣り】 集魚灯でイカをおびき寄せ、自動イカ釣り機でスルメイカ・ヤリイカなどを獲る。



【旋網】 大型の網を漁船で円形に広げ、マグロ・カツオ・サバ等の魚群を包み込んで獲る。



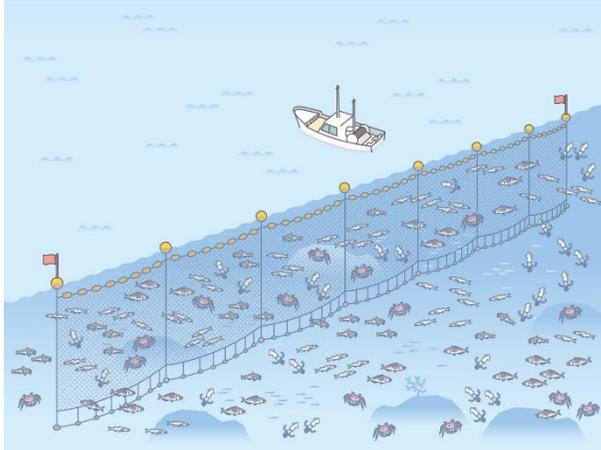
【一本釣り】 カツオ等の魚群を見つけ出し、イワシ等の餌でおびき寄せて釣る。



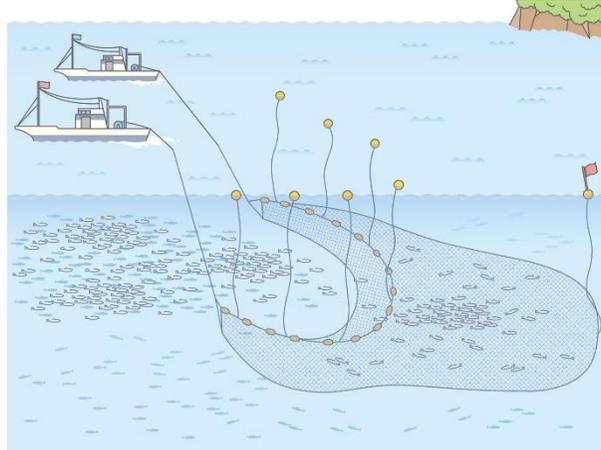
【定置網】 垣網で魚を遮り、昇網で誘導し、箱網で捕まえる。サケ・イワシ・サバ等を獲る。



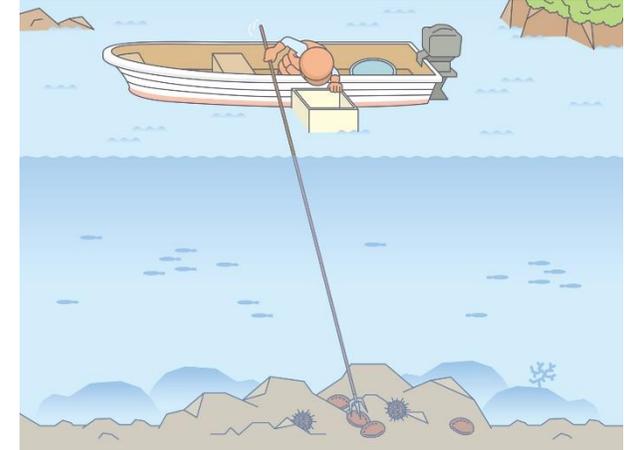
【刺し網】 魚の通り道に網を仕掛け、サケ・タラ・カレイ等を絡ませて獲る。



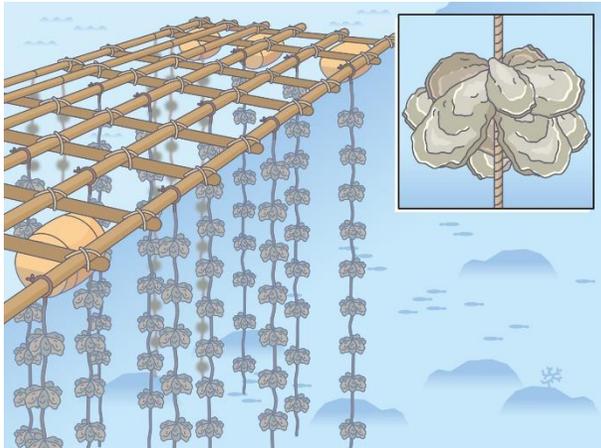
【船曳網】 袋状になった網を1～2艘の漁船で引いて、イサダ等を獲る。



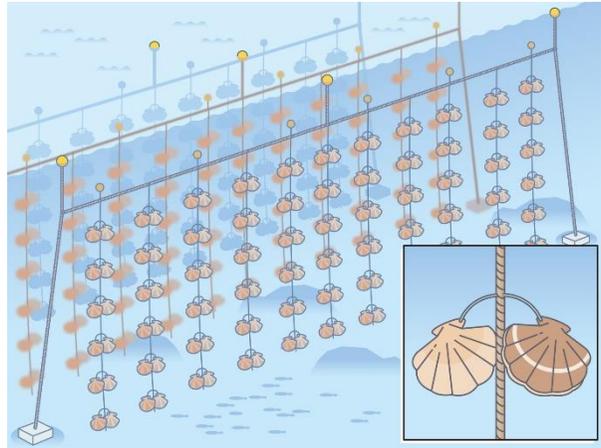
【採貝・採藻】 カマ・モリ等の道具を使って、船上から人の手でアワビ・ウニ・海藻類を採る。



【カキ・ホヤ養殖】 カキ・ホヤの稚貝が付いた種をロープに挟み、筏から吊るして育てる。



【ホタテ養殖】 ロープにアゲピンでホタテを括り、延縄から吊るして育てる。筏の場合もある。



【ワカメ・コンブ養殖】 胞子を着けた種糸をロープに取り付け、筏・延縄に吊るして育てる。

